

平成 29 年度 労災疾病臨床研究事業費補助金研究

研究結果の概要

研究科題名	「精神疾患患者の社会復帰指標作成・効果的介入同定の系統的レビュー」		
主任研究者	京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻		渡辺 範雄
分担研究者	大分大学医学部 公衆衛生・疫学講座		井谷 修
	京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻		小川 雄右
	日本大学医学部社会医学系公 衛生学分野		地家 真紀

研究目的

既存の研究の包括的レビューを行うことによって、精神疾患による就労の長期休業からの復職に関して、これを予測する指標、また復職を推進する効果的介入の開発・同定を行う。

研究方法

前年度に既存のエビデンスの情報収集を行い、研究計画を作成したうえで平成 29 年度は上記目的を満たすべく 3 つの系統的レビューと、既存の系統的レビューを集積した 1 つのオーバービューを行った。

系統的レビュー1 では復職に関する精神疾患重症度や日常生活因子を探索し、系統的レビュー2 では無作為割付対照試験を収集し、既存の系統的レビューになかった自閉症スペクトラム障害に焦点を当て、復職や就職への心理社会的介入のメタアナリシスを行った。系統的レビュー3 ではライフスタイルに対する介入研究を集積した。オーバービューでは既存の系統的レビューを収集・質評価を行い、異質性等がなければ量的統合・予測モデル作成の方針とした。

研究結果

結果、系統的レビュー1 では復職の関連した生活習慣として、喫煙・睡眠・飲酒・運動が同定された。しかし、オーバービューでは生活習慣に言及している研究はなかった。本領域では先行研究の多様性や異質性が大きく、一貫した結論が困難と考えられた。系統的レビュー2 では自閉症スペクトラム障害に対してコミュニケーションスキルトレーニングによる就労達成者割合や就労インタビュースコア上昇が示された。系統的レビュー3 では、主に日本国内の復職に関する介入は対照群がない前後比較研究で、運動が介入として多かったが特定のものがあるという結論には至らなかった。オーバービューでは生活指導の介入に関する報告はなく、認知行動療法等の精神療法では報告はあるが、有効性は確固たるものではなかった。また異質性が明らかで、量的統合を行うことは不可能であった。

結論

先行研究には多様性や異質性が大きく、量的統合はもちろん一貫した方向付けを持つ結論が困難であることが示された。今後の研究では研究スコープ・アウトカムの統一化への留意と、大規模データを使った解析の必要性も示唆された。